



特許願

昭和47年6月10日

特許庁長官

井土武久 殿

1. 発明の名称

三段行程オディ処理機

2. 発明者

トヨタコト フィニッシュ ホンシユアドウ
東京都府中市本宿町1-5-1

氏名 山城宏昭

3. 特許出願人

郵便番号 180-00 TEL 0423-64-3768

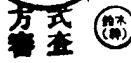
住所 (居所) 東京都府中市本宿町1-5-1

氏名 (法人にあつては名称) 山城宏昭

4. 添付書類の目録

(1) 明細書	1通
(2) 図面	1通
(3) 願書副本	1通
(4) ()	通

47 057815



明細書

1. 発明の名称 三段行程オディ処理機
2. 特許請求範囲
 1. 下水道オディ液揚装置とオディ水切タンク及び車輪への積込装置と連結機構成した装置
 2. 下水道内ワイヤーローラー位置自在装置
3. 発明の詳細な説明
 1. 発明の目的

今般都市下水道の整備に伴い必然的にその維持管理の問題が取上げられ(来た)したがて作業機械の車輪の底を要するのであるが、現在使用中の機械はオディ液揚げ作業、水切作業、積込作業等が連結作業にせらす。別々に作業するため作業能率が遅く機械購入費が高くせり、作業時間ばかりをもつて維持管理の費用が重むる(と)のである。道路等有時間に限り主要道路の下水道清掃等も困難が増がる。作業機械のコストを下げる事、作業能率を上げる事等、目的を実現したのである。

⑯ 日本国特許庁

公開特許公報

⑪特開昭 49-17040

⑬公開日 昭49.(1974) 2. 15

⑭特願昭 47-57815

⑮出願日 昭47(1974) 6. 10

審査請求 未請求 (全2頁)

庁内整理番号

⑯日本分類

6963 22

91 B2

口. 発明の構成

特許請求範囲1に同じ。

別紙圖面1に示す様に下水溝(ボックスカルベート)のオディ処理作業の例であるが、バケット(8)により液揚げされたオディを一時オディ貯蔵タンク(9)に入り、或る量に達すとまで液揚げ作業を繰り返しながら、その間にタックの水分と排水管(10)に依り下水溝へ灰し水分を除ます。タンク(9)に一定量のオディが入った後、レールフレーム(5)を通りレールフレーム(6)を介してタンク(9)下部に移動し、車輪(2)にて車輪への積込を行ふ。積込完了後再びレールフレームを通り受入れ装置へ向りオディ液揚げ作業に入る。

特許請求範囲2に同じ。

下水道マーカー内にワイヤーローラーを設置すれば、月用カベを利用する事が出来るが、下水溝(ボックスカルベート)のマーカーは入口だけで内部にはローラー取付は困難である。

別紙圖面2に示す様に下水溝を仰と天井側にまたがってローラーフレーム(11)を固定し、下水溝内にオディの高積量に(たがつて)ローラー(4)の位置を油圧シリンダー(2)に依り調整すれば、下水溝内のローラー取付の問題を解決する。

尚で、ホールより下水溝にローラーフレームを入れる時はローラー(4)を取外しローラーフレーム中を調整パイプ(3)により締めこむホール直邊側に必要中に床しローラーと取付ければ小径マントルで設置出来る。

八、発明の効果

特許請求の範囲 1.に同じ

- オティ波揚げ、木切、積込の各作業を1台の車両にセットする事に依り製作コストが安い。
- 一連の作業時間が短縮され、作業負担を少々減らす。
- 一連の作業をするのに道路専有面積が少ない。
- 雨水処理をスムースに行え、アスファルト路面を汚さない。

特許請求の範囲 2.に同じ

- 発明の構成のうちのべた様に大径下水溝(ホーフスカルベート)にローラーを設置する事が出来る。
- ローラーの位置をマントルの直下に設置する事に依りマントル直下のオティ(第5図Bの斜線の部分)の波揚げが可能である。
- ローラーフレームの竹を締めこむ事が出来ることで小径マントル内に設置出来る事実がある。

(3)

特開昭49-17040(2)

第1図は本発明の全体の側面図

第2図は車両の移動時、各部を格納した側面図

- 車両運転席
- 作業運転席
- シート
- ウインチワイヤードラム
- 中間レールフレーム
- 先端レールフレーム
- バケット滑りフレーム
- オティ波揚げバケット
- オティ貯蔵タンク
- アンダーローラーフレーム
- アンダーローラー
- 下水溝
- マントル
- タラフ水分処理板

第3図はローラーフレームの平面図

- ローラーフレーム
- ローラー支点油圧シリンダー
- ローラーフレーム中調整パイプ
- アンダーローラー
- フレーム固定ワイヤー

第4図はローラーフレームの側面図

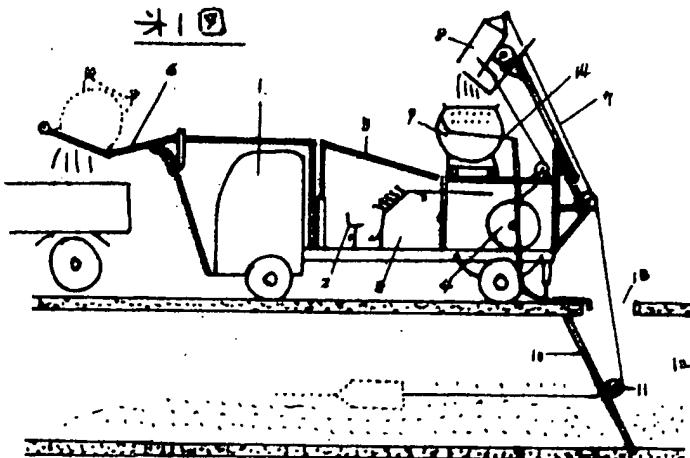
- 下水溝マントル
- ローラーフレームを用いた時と車両ローラーを用いた時の比較図
- 右の時は斜線の部分の波揚げが不可能である。

特許出願人 山城玄昭

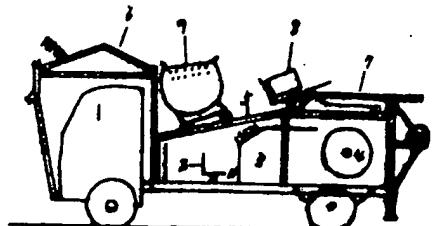
(4)

図面

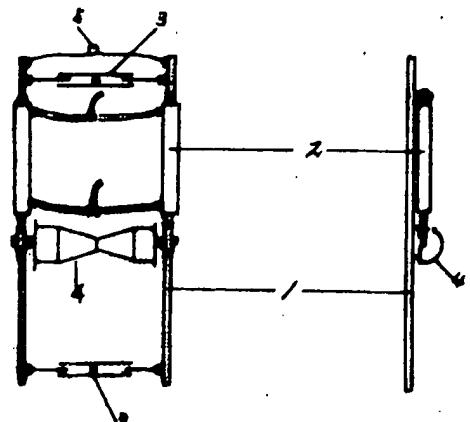
第1図



第2図



第3図



第4図

